

はじめに

この記録は、平成26年中に本県で発生した災害の被害状況及び気象状況等を収録したものです。

国内では8月20日の豪雨により、広島県広島市において大規模な土砂災害が発生、76名もの死者を出す甚大な災害となり、土砂災害の特徴と地域における土砂災害リスクの把握・共有、住民への避難勧告等の情報伝達などの課題が見出されました。

また、9月27日には長野・岐阜県境の「御嶽山」において発生した噴火により、死者58名行方不明者5名を出す甚大な火山災害となり、火山監視・観測体制、火山防災情報の伝達など、火山防災対策に関する様々な課題が明らかになりました。

一方、本県で発生した主な災害としては、2月14日に発生した雪害により死者1名が発生したのをはじめ、8月6日から10日にかけての台風11号では7名の重軽傷者等が発生し、10月5日の台風18号では4名の重軽傷者等が発生しました。これら本県で発生した災害による被害総額は約50億円にのぼりました。

このような災害から県民の生命や財産を守るため、県では防災行政無線や全国瞬時警報システム（J-ALERT）の整備、携帯電話への防災・防犯情報メールサービスの提供などにより、災害時において、県民に迅速・的確に災害情報を提供できるよう防災体制の充実を図っております。

また、地域における自主防災活動のリーダーとなる防災士の養成や、県総合防災訓練における避難訓練の実施、誰もが参加でき地震発生時の身を守る行動を確認する県民一斉防災行動訓練（みやざきシェイクアウト）を実施するなど、自助・共助の取組推進による地域防災力の向上にも取り組んでいるところであります。

これからも、本県の地域防災計画に基づき、県民及び各防災関係機関が一体となって、安全で安心して暮らせる社会を目指し、一層連携してまいりたいと考えております。

関係機関等におかれましては、本記録を防災上の関係資料として御活用していただければ幸いに存じます。

最後に、この記録の収録に当たり御協力をいただきました宮崎地方気象台をはじめ、関係機関の皆様に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

平成28年3月

宮崎県危機管理統括監

金丸 政保